



記念樹

発行者
医療法人 大分記念病院

大分市羽屋9組の5
TEL 097 - 543 - 5005



ホームページアドレス <http://oitamh.jp>

2011年5月15日 Vol. 94

東日本大震災に伴う原発事故が投げかけた バイオエシクス(生命倫理)上の諸問題

はじめに、この度の大震災と津波により尊い命を失われた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、一命はとりとめたものの住居を失い、最愛の家族や友人を失い、今も水や電気などライフラインが寸断されて苦勞をされている東日本地方の被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。どうか一日も早く余震がおさまり、原発事故の進行が止まり、皆様が将来に希望を持てるような復興計画が立案され実行に移されるよう、職員一同心から祈っております。

今回の史上最大の地震と津波による災害については、誰しも「まさか、信じられない」というのが本音とされます。しかし、今から115年前の1896年(明治29年)にマグニチュード8.2~8.5で、それに伴う津波の高さが38メートルという巨大な明治三陸地震が報告されており、地震の周期性から近い将来再び起こり得る災害として予測されていました。そのような巨大地震と大津波に襲われたらどうなるかも歴史から学べたはずなのに、国や自治体はどうして電力会社が海岸沿いに何機もの原子力発電所を建設することに許可を与えたのか、国の防災と危機管理について意識および生命倫理についての考え方はどうなっていたのか、また国は原発についてその必要性和利便性のみでなく、危険性についても国民に十分な説明を行ったのかなど、諸々の疑問が湧いてきます。予想を遙かに超えた巨大地震とはいえ、地震と

津波の被害だけならまだしも、今回最も憂慮すべきことは根本的解決の方法も未だ定かでない原発事故であり、これは何年にもわたって東北のみでなく、日本全体の大気、土壌及び海洋を汚染し、世界の人類にまで生命の危険を及ぼすかもしれません。原発は日本のみでなく世界中にたくさんあり、現在も稼働しています。核が世界中にはびこる中、我々人類は一旦核戦争が始まるか、核によるテロが起これば人類の終焉に繋がりがかねないことを心配していますが、癌細胞のように内側から国を滅ぼしかねない原発事故の危険性を多くの国が常に抱えていることを今度の事故は世界中の人々に知らしめたに違いありません。

どのような理由があろうとも、人の生命を危険に曝し、自然を汚染して人類を滅亡に追いやる危険のある放射能をコントロールする方策がない時点で原発を始めるべきではなかったのではと思われま。国民のほとんどは原発の真の怖さを知らされておらず、電力会社と国の原発行政がこれほど無策であるとは知らずに「専門家にまかせておけば安心」と高を括っていたのではないのでしょうか。

近年、科学の進歩は薬害、自然の汚染と地球の温暖化など解決困難な生命倫理的問題を次々に生み出していますが、原発のように人類の存亡に関わる重大な問題については、生命倫理の観点でとらえ、企業や政治家や御用学者などによる決定ではなく、全国民にオープンな形で学際的に討議

し、国民に十分周知させた上で国民投票により結論を出すべきではないでしょうか。日本人の得意とする物作りの才能と工夫により火力発電とともに、水力、風力、太陽光およびその他の代替エネルギーを利用し、効率的に電力を供給するシステムのイノベーションを日本で迅速に発展させ、従来の電力過剰消費型のライフスタイルを改め、電力消費を減らすことを国民の理念とし、国がその方針を強い指導力でバックアップすれば「禍転じて福となす」ことも可能かもしれません。

しかし、国や企業が今回の大惨事を徹底的に反省し、今後のエネルギー供給の在り方を国民的総意のもとに根本から考え直さなければ、我が国の再建と未来への発展はあり得ないでしょう。放射能をコントロールする技術のないまま原発を続けるしかないとなれば、1962年にレイチエル・カーソンが農薬による鳥類絶滅の危険性を警告した著作「沈黙の春」から半世紀を経て、放射能汚染により「沈黙の日本列島」が訪れないと誰が断言できるのでしょうか。特に私たちの子どもや孫たちに将来恐ろしいつけを回すことになるかもしれません。このような状況を許してきた私たち日本国民ひとりひとりの責任も重いです。生命倫理的視野を欠いた行政や企業の責任は更に重いと考えます。

これからの政治は「知らしむべからず、やらしむべし」ではなく、特に原発のような重大な問題については国民が十分理解出来るよう行政側から分かりやすく真実を伝え、共同体主義的なバイオエシクス(生命倫理)に則り、議論を尽くした上で、国民にとって最も望ましい選択を行うべきではないでしょうか。

(豊田)

“ふるえ”

手がふるえてコップや茶碗をつまみく持てない、字をきちんと書けないといった症状に悩んでいる方がいらつしやると思います。体の一部あるいは全身に出現する規則的なふるえを振戦しんせんといえます。振戦は誰でも経験する症状で、病気とはいえない場合も多く、腕を使わずに疲れた時や、ひどく緊張したり興奮した時などに生じるふるえは、生理的振戦といわれます。生理的振戦は、そのような疲れがとれ、また緊張や興奮から精神的に落ち着いた状態になれば自然に治まります。

一方、ふるえが強くと日常生活に支障がある場合、何らかの病気が原因となつてふるえが起つていることがあります。その時は、原因となる病気を明らかにし治療しなければなりません。

ふるえをきたす病気の代表的なもの、本態性振戦ほんたいせいしんせんとパーキンソン病です。

本態性振戦

本態性振戦はふるえを唯一の症状とする病気です。本態性振戦は広い年齢層にみられますが、高齢で発症した場合は老人性振戦とも呼ばれます。



また、家族に同じような症状の人がいる場合は、家族性振戦ということもあります。一定の姿勢を保持する際（姿勢時）、また字を書く時など何かを行う際（動作時）に、やや速いふるえがみられます。手のふるえ以外に、頭部や声ふるえる人もいます。本態性振戦のふるえが飲酒によつて明らかに改善することは、古くから経験的に知られている特徴の一つです。また精神的に緊張するとふるえが強くなります。本態性振戦の原因はまだよくわかっていません。ふるえが軽いうちは問題になりませんが、字が書きにくいとか手に持ったコップの水がこぼれるなど、日常生活に不自由をきたすようになると治療が必要です。本態性振戦の治療にはβ遮断薬やαβ遮断薬を用います。β遮断薬、αβ遮断薬は高血圧、狭心症、不整脈の治療に広く使わ

れている薬ですが、本態性振戦に効果があることがわかり使用されるようになりました。ベンゾジアゼピン系の抗不安薬、また抗けいれん薬が本態性振戦に有効なことがあります。

パーキンソン病

パーキンソン病と本態性振戦では、ふるえの特徴にかなりの違いがあります。パーキンソン病では、比較的ゆっくりとしたふるえが、何もしないでじつとして現れます。逆に、何かをしようとする時、ふるえは軽くなります。すなわち本態性振戦が姿勢や動作によつてふるえが生じるのに対し、パーキンソン病では安静時にふるえが起きます。パーキンソン病では多くの場合、まず手にふるえが現れ、次に足がふるえるようになります。手の指では親指と他の指をすり合わせて、丸薬を丸めるような動きがみられ、ふるえの現れ方に左右差があります。またパーキンソン病では、ふるえのほかに筋肉がたくこわばる、動作が遅くなる、安定した姿勢を保てなくなるといった症状がみられます。パーキンソン病では脳の中にある「黒質」という部分の神経細胞が徐々に減少することが明らかになっています。黒質にある神経細胞は、体を動かすために神

経に命令を伝えるドーパミンという物質をつくっていますが、その神経細胞の減少とともにドーパミンが不足し、病気の症状が出現すると考えられています。

パーキンソン病の治療は薬物療法が基本になります。脳内で不足しているドーパミンを補うために使用されるL-ドーパ製剤や、ドーパミンの作用を持ち、ドーパミンのかわりに神経に命令を伝えるドーパミンアゴニスト（ドーパミン受容体作動薬）など、パーキンソン病の治療薬は数種類あり、症状に見合った薬を服用することが重要です。

ふるえが現れる病気は、本態性振戦、パーキンソン病のほかに、様々なものがあります。例えば、甲状腺機能亢進症は、ふるえをみた場合に鑑別しなければならぬ病気の一つです。甲状腺機能亢進症を疑った場合、血液検査で甲状腺に関連するホルモンを測定する必要があります。また気管支拡張薬など、薬によつてはふるえを誘発するものがあり、他の病気で治療を受けている場合は、どのような薬を服用しているのか確認しなければなりません。日常生活に困るようなふるえがあれば、一度診察を受けることをおすすめします。

病院機能評価 Ver.6 認定証授与!

当院は、5年前初めて財団法人日本医療機能評価機構によって行われる3日間にわたるソフトとハードの両面について、多角的かつ厳しい審査を受けました。その結果指摘されたいくつかのハード面の不備を改善することにより、病院機能評価Ver.4の認定を受けることが出来ました。それ以来、機能評価委員会活動を通じて定期的に病院機能全般の改善を行ってきました。

そして、5年後の2010年11月25日～27日までの3日間、第2回目の病院機能評価の審査を受け、この度は前回と比べかなりの高得点で付帯事項もなく合格し、2011年2月20日付けで病院機能評価Ver.6の認定証を授与されました。

このように外部機関から3日間にわたる厳しい客観的な審査を受けるのは大変な仕事ですが、そうすることにより「患者中心のチーム医療」という病院の理念を病院スタッフ全員が再認識する機会となり、アメニティーの向上により患者満足度が高まるだけでなく、病院全体としての機能も改善し病院の質が向上しているのを肌で感じ取ることが出来ます。

今回は5年前のVer.4からVer.6へ格上げでの受審査となりましたので、前回よりも高度な機能を要求されまし



た。その一つが薬剤部門における「ミキシング機能」です。これは抗がん剤を調整する際に細菌が混入しないようにすることと、抗がん剤が拡散しないようにするために「安全キャビネット」を設置した個室で薬剤師が行うことを義務付けるもので、そのために「ミキシング・ルーム」を新規に設けました。

当院は内科疾患専門病院ですが、中でも白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患が多く、外来化学療法室で治療を行っています。ミキシング機能の追加により抗がん剤の拡散防止や点滴への細菌混入などのリスクの予防が可能となり、治療レベルの更なる向上に寄与すると思います。

今後ともさらに良い病院を目指して、まだ不十分な機能を改善するよう職員一同で頑張りたいと思います。

患者の権利宣言

患者の皆様は「患者中心」の理念の基に、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者の皆様と医療従事者とが互いの信頼関係に基づき、協力して作り上げていくものであり、患者の皆様が主体的に参加していただくことが必要です。

- 1) だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2) 一人の人間として、その人格、価値観などが尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
- 3) 病気、検査、治療、見直しなどについて、理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 4) 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針などを自らの意思で選択する権利があります。
- 5) 主治医以外の医師の意見（セカンドオピニオン）を得て、最も納得できる治療方法などを選択する権利があります。
- 6) 自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 7) 診療の過程で得られた個人情報の秘密やプライバシーは厳正に守られます。



インフォメーション



光尾 佳那子 (看護部)

仕事を早く覚え、患者さんにより満足してもらえるような看護が出来るよう努力していきたいと思ひます。



馬場 愛弓 (看護部)

常に感謝の気持ちを忘れずに笑顔で頑張りたいです。



橋本 夏紀 (リハビリテーション科)

より多くのことを吸収できるように、日々学ぶ意識をもって過ごしたいと思ひます。



三谷 文乃 (臨床工学科)

早く職場の雰囲気慣れ、業務を覚えられよう一生懸命頑張ります。



佐藤 泉実 (臨床検査科)

社会人の一員となり、今後はメリハリのある行動を心がけ、広く周りに目を向けて色々なことを吸収し精進していきたいです。



波多野 杏里

(医療福祉相談室)

早く仕事を覚えて、一社会人として行動することが出来るように頑張ります。



大島 富貴

(地域医療連携室)

まずは新しい職場に慣れ、大分記念病院の一員として院内外の連携に努めます。



本山 真澄 (医療事務課)

わからないことがたくさんあると思いますが、1日でも早く業務に慣れ、一生懸命働きたいと思ひます。



石田 仁美 (栄養科)

仕事を早く覚えられよう精一杯頑張ります。



作りま専科

もやしのおし酢いため

【材料】(4人分)

もやし ……………2袋
にんにく ……………3片
とうがらし ……2本(種を捨てる)
すし酢 ……………大さじ3
塩こしょう ……………少々
サラダ油 ……………大さじ2

〈作り方〉

- ① もやしに熱湯をかけるか、沸騰した湯にサッとくぐらせてザルにあげ、水気を切る。
- ② にんにくは皮をむいて薄切りにし、唐辛子は種をとって小口に切る。
- ③ フライパンにサラダ油を熱して、にんにく、とうがらしを炒め、にんにくの香りがたったら、もやしを入れて炒める。
- ④ もやしに火が通ったら塩こしょうをして、最後にすし酢を加えてざっくり混ぜる。
- ⑤ 器に盛りつけて出来上がり。

ひとくちメモ

もやしは無添加、無農薬で作られる清浄野菜です。ビタミンB₁、ビタミンCが豊富に含まれており、熱に弱いビタミンを壊さないようにするには、手早くゆがくことが大事です。沸騰したお湯に大さじ2のサラダ油を入れると、お湯の沸点が高くなりますが、こうした熱いお湯でサッとゆがくことが美味しさと栄養を損なわないためのポイントなのです。



他にも、もやしには水に溶ける食物繊維と溶けないものが共に多く含まれており、便秘を予防する働きがあります。

また、すし酢はその名の通り、お寿司の味の決め手となる調味料ですが、ポテトサラダや炒め物、和え物に加えたりと、お寿司以外の料理でも活躍する優れたものです。



編集後記

寒くて厳しい冬に別れを告げ、暖かい春が訪れました。そして春風に乗って今年も新入職員の皆さんが大分記念病院に仲間入りしました。

真新しいユニフォームに身を包み、緊張した面持ちの新人さんを見ていると、入社したての自分と重なり背筋がピンと伸びる思いです。若い力を存分に発揮して、フレッシュな風を吹き込んでもらいたいと期待しています。(中島)

医療法人 大分記念病院

基本理念

- 1) 私達は病院各部門が一致協力して、患者中心のチーム医療を実践することにより、患者満足度と幸福に貢献します。
- 2) 私達は常に診療レベルと看護ケアの向上を図ると共に地域住民に安全で良質の医療を提供します。
- 3) 私達は地域の医療・福祉機関との緊密な連携を保ちながら地域完結型医療を実践します。

基本方針

- 1) 専門的医療レベルと医のアートを兼ね備えた医師による全人的医療を患者の皆様へ提供します。
- 2) 患者の皆様立場に立って、信頼と安全の確保に全力を尽くします。
- 3) 患者の皆様満足度を高めるべく、心のこもった医療サービスに努めます。

大分記念病院ホームページはこちらから

大分記念病院

検索

